

おみ
第一面
①

平和の創造する
核兵器の原則

人類が初めて原子爆弾を用い、その惨禍を蒙った広島に
近い竹原市に集った私たち諸分野の科学者は、一年前に
第一面
科学者京都会議の声明の意義と内容とを再確認し、
「キューバ以後の世界情勢」、「アジアの中の日本」、
「科学者の社会的責任」に関する諸報告を中心として、
三日間にわたる討議を行いました。とくに、前回の声明
の中で指摘された諸点を含めて、さらに深く検討しまし
た。

(一) 昨年の科学者京都会議の声明の中で、私たちは大
量殺戮兵器による抑止政策の危険な性格を指摘し、こ
の政策への反対の意志を表明しましたが、その後、キ
ューバの危機の日々に、核兵器の危険な深刻の縁に立たさ
れた戦慄すべき体験を経ました。抑止政策は最近では
核兵器運搬手段と移動可能な結合としての性格をそな
えた潜水艦を主体とする核戦力の戦術的形態をとり
つつあり、地球表面の全域にわたる基地網の整備とあ
いまって、益々緊迫の度を加えつつあります。このよ
うな状況のもとでは、世界各国の全市民は、少数

金人戦争

c091-006-022

②

の政策決定者の人質に環境におかれたいとあり
ましよう。従って、私たちは更に一層の熟意をもって
この不幸な政策との対決を決意いたします。
(二) いっ再び、キューバ危機が世界のいすれかの地点
で発生するかも知れない。このような危機に当面して
私たちはともすれば絶望感に襲われ勝ちでありま
す。しかしながら、私たちは正失は運命ではなく、人
間によって作られるものであることを想起したいと思
います。このことは例え、十九の年頃と十九五の
年頃という二つの時点の世界史の断面を比べてみれば
明らかになります。前者においては、世界の社会改革
の運動も民族主義の動きも、また科学者、芸術家たち
の営みも互に全く孤立し、連帯感を欠いていて、この
事情が当時の弱肉強食の列強国の戦争を可能にしてい
ました。しかるに十九五の年頃においては、国境を越
えた連帯感に結ばれた大衆の平和運動が国際
政治に影響を与え得るまでに育ってきています。
(三) このような状況において、赤国の声明は、
大日本国憲法や九条が平和の道を創造するための
多岐にわたる記述に、穴を空けて

木
取
解
以
海
東
之
風

第一冊科学者等即会議以後、軍縮と日全協との関係
 手記の、いくつもの花びらがあつてあることは、私
 達と深く気がつくものであります。もとより科学者の
 社会的責任に於ける意識は、主として、原子核戦争の丁
 史的社会的文化の認識と通じて成長して来たものであり
 ました。しかし、私達は、材料科学の方面のものは、
 であるべきであり、特にイデオロギーや方法論のちがひ
 とこゝで、次元にある平和の創造という問題に於いては、
 人文・社会、自然、全方面の科学者の協力、その社会的
 責任を果すことが、さう固つた必要であると思つて
 ともに同一の観点から中華人民共和国をはじめアジア諸
 国の科学者の協力を得る可能性を検討することも将来の
 重要課題の一つであります。

12 4 7 2

(七) 今日、社会に対して巨大な影響力をもつものとな
った科学が悪用される場合を考えると、悪の可能性を
作り出した者として責任の重大さを身にしみて感ぜず
るを得ません。私たちは科学の悪用を防ぐ力と倫理と
が社会に広がりつつあるに^{たと}勇氣付けられ、さらに生産者
たち^ため、科学により発見された真理を真に人類の
幸福と平和のために役立たせるための全国民の努力が
強く行われることを強く願っています。

ふ長